

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	35人	国語B	35人
② 算数A	35人	算数B	35人
③ 理科	35人		

5 留意事項

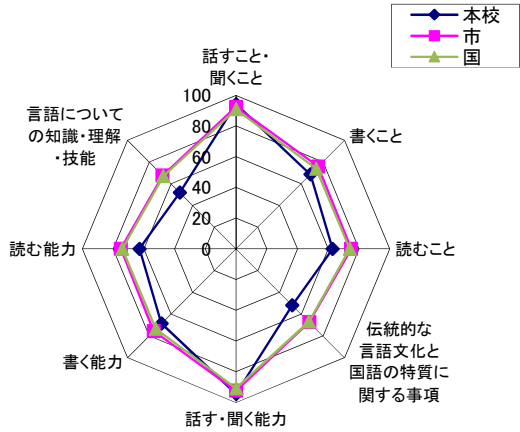
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

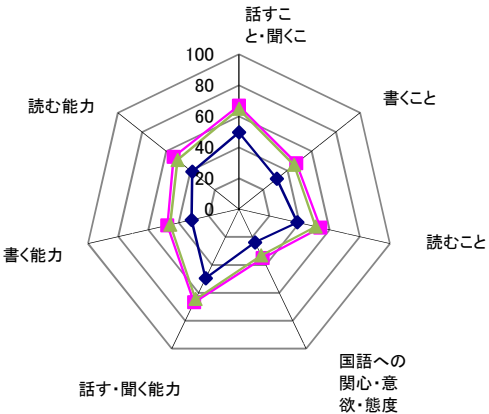
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	94.3	92.4	90.8
	書くこと	68.6	75.7	73.8
	読むこと	62.9	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	51.8	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	94.3	92.4	90.8
	書く能力	68.6	75.7	73.8
	読む能力	62.9	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	51.8	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	49.5	66.8	64.6
	書くこと	31.4	47.4	45.6
	読むこと	38.6	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	23.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	49.5	66.8	64.6
	書く能力	31.4	47.4	45.6
	読む能力	38.6	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

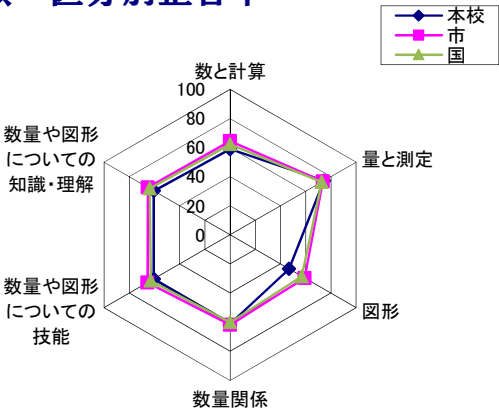
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aにおける本校正答率は、94.3%であり、全国の平均との比較で3.5ポイント、市の平均との比較では1.9ポイント高い。 ●国語Bにおける本校正答率は、49.5%であり、全国の平均との比較で15.1ポイント、市の平均との比較では17.3ポイント低い。	・話し合い活動の中で、質問の意図や計画的に話し合うための司会の果たす役割について、正しく捉えられるように指導する。 ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比較して共通点や相違点を考え、まとめられるように指導する。
書くこと	●国語Aにおける本校正答率は、68.6%であり、全国の平均との比較で5.2ポイント、市の平均との比較では7.1ポイント低い。 ●国語Bにおける本校正答率は、31.4%であり、全国の平均との比較で14.2ポイント、市の平均との比較では16ポイント低い。	・自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考え、物語を書くときに構成メモを活用して工夫できるように指導する。 ・目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くことができるように指導する。 ・効果的に推薦文を書くために、そのよさが伝わるように他のものと比較するなどの工夫をして書けるように指導する。
読むこと	●国語Aにおける本校正答率は、62.9%であり、全国の平均との比較で11.1ポイント、市の平均との比較では12ポイント低い。 ●国語Bにおける本校正答率は、38.6%であり、全国の平均との比較で12.2ポイント、市の平均との比較では15.4ポイント低い。	・登場人物の心情を正確に読み取れるようにするために、情景描写に印をつけ、それを基に捉えることが有効だと指導する。 ・目的に応じて必要な情報を捉え、説明文を正確に読み取ることができるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aにおける本校正答率は、51.8%であり、全国の平均との比較で15.2ポイント、市の平均との比較では15.7ポイント低い。	・文中の主語と述語との関係に注意し、文と文を適切に結びつけることができるように指導する。 ・日常生活において使われている慣用語の意味を理解し、使えるようにする。 ・相手や場面に応じて使う言葉が変わることを理解させ、適切な敬語をできるように指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

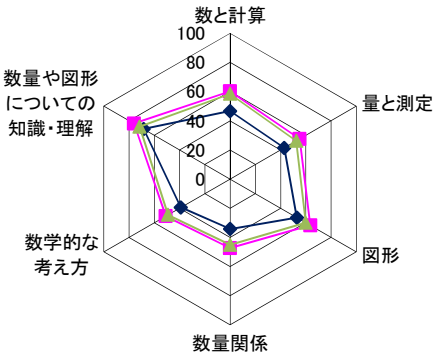
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	58.9	64.5	62.3
	量と測定	74.3	73.6	72.7
	図形	46.7	59.1	56.9
	数量関係	61.1	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	60.6	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	60.6	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	46.7	60.2	58.4
	量と測定	42.9	55.0	52.4
	図形	52.9	63.5	59.9
	数量関係	34.3	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	39.0	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	68.6	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

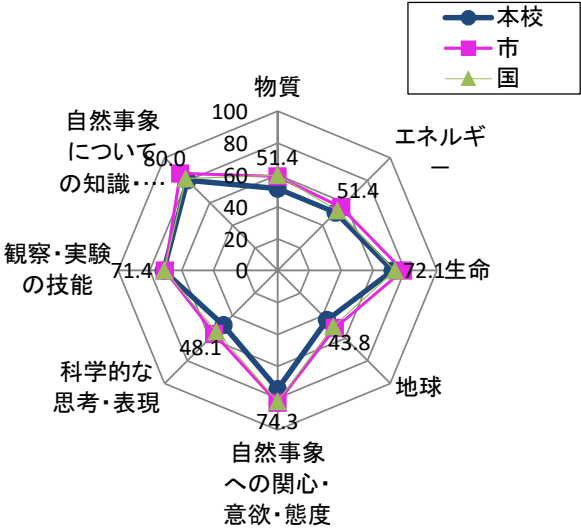
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○除法で表すことができる二つの数量の関係を理解する問題の正答率は、74.3%であり、全国の平均との比較で11.4ポイント、市の平均との比較で11ポイント高い。 ●算数Aにおける本校正答率は、58.9%であり、全国の平均との比較で3.4ポイント、市の平均との比較で5.6ポイント低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、46.7%であり、全国の平均との比較で11.7ポイント、市の平均との比較で11.7ポイント低い。	・3桁の整数同士の大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く問題の正答率が低い。およその数や計算問題などにおいて常に位取りを意識して学習を進める等、継続的に指導する。 ・基本的な計算の定着に向けて、毎日の宿題や朝の学習等で練習を重ね、習熟を図っていく。
量と測定	○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの込み具合の比べ方を理解する問題の正答率は97.1%であり、市の平均との比較で6.4ポイント、全国の平均との比較で9.3ポイント高い。 ○算数Aにおける本校正答率は、74.3%であり、全国の平均との比較で1.6ポイント、市の平均との比較では0.7ポイント高い。 ●算数Bにおける本校正答率は、42.9%であり、全国の平均との比較で9.5ポイント、市の平均との比較で12.1ポイント低い。	・示された情報を解釈し、数量関係に着目して条件に合う時間を求める問題の正答率が低い。文章の中から、問題解決に必要な情報はどこかを考える活動を継続的に取り入れ、情報の見つけ方が身に付くようにする。
図形	●算数Aにおける本校正答率は、46.7%であり、全国の平均との比較で10.2ポイント、市の平均との比較では12.4ポイント低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、52.9%であり、全国の平均との比較で7ポイント、市の平均との比較では10.6ポイント低い。	・空間の中にあるものの位置を表す問題の正答率が低い。横・縦・高さの3要素が必要であることを、具体物や視覚的な教材を利用して示し、習熟を図る。 ・敷き詰め模様の中から正三角形と正六角形の図形を見出し、示された角の大きさの和が360°であることを、図形の名称と言葉や式で説明する問題の正答率が低い。問題場面を的確にとらえ、言葉や式を用いて表す力を身に付けさせるため、応用問題に取り組む際には、自力解決の時間を十分に取っながら、指導を進めていく。
数量関係	○百分率を求める問題の正答率は60.0%であり、市の平均との比較で3.3ポイント、全国平均との比較で7.1ポイント高い。 ●算数Aにおける本校正答率は、61.1%であり、全国の平均との比較で1ポイント、市の平均との比較では0.7ポイント低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、34.3%であり、全国の平均との比較で10.8ポイント、市の平均との比較では13ポイント低い。	・折れ線グラフから、変化の特徴を読み取る問題の正答率が低い。グラフの読み取り方を、視覚的な教材を利用して指導することで習熟を図るとともに、示された情報に当てはまるグラフを選ぶ問題も取り上げ、理解を深めていく。 ・算数の問題場面から見出した数量関係をもとに、異なる数量で分配法則を用いて立式する問題の正答率が低い。計算のきまりを使った問題や式の意味を説明する活動に繰り返し取り組ませることで、理解を深める。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	51.4	59.0	59.8
	エネルギー	51.4	56.4	53.1
	生命	72.1	78.6	73.6
	地球	43.8	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	74.3	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	48.1	56.1	54.1
	観察・実験の技能	71.4	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	80.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	●校内正答率は51.4%であり、市平均より7.6ポイント低く、県平均より8.4ポイント低い。 ●もののとけかたについて、物を水に溶かした重さを選ぶ設問や、実験結果から言えることだけを選び、記述する問題に課題が見られる。	・実験方法や結果を言葉や図や表、グラフなどでまとめたり、結果から考えたことを話し合ったり文章にまとめたりして表現力を高めていく。
エネルギー	●校内正答率は51.4%であり、市平均より5ポイント低く、県平均より1.7ポイント低い。 ○「目的の時間帯だけモーターを回すために、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中で光電池の適切な位置や向きを選ぶ」設問の正答率は62.9%であり、県平均より14.7ポイントとやや高く、国平均より21ポイント高い。	・条件を考えて実験をしたり、その条件の理由を考えたりするとともに、予想の段階から図や表で考えを発表するなどの活動を取り入れ、思考力や表現力を高めていく。
生命	●校内正答率は72.1%であり、市平均より6.5ポイント低く、県平均より1.5ポイント低い。 ○「人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ」の設問の正答率は62.9%であり、県平均より14.7ポイント高く、国平均より21ポイント高い。	・自分の体を触ったり、骨の模型や図鑑や映像教材などを活用したりして、ヒトや動物の体のしくみについて理解が深まるようにする。また、調べた体の部分ごとに記録を集めたり、特徴ごとに記録を集めたりして表現力を高められるようにする。
地球	●校内正答率は43.8%であり、市平均より7.1ポイント低く、県平均より5.7ポイント低い。 ●流れる水のはたらきについて、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述したり、複数の情報を関係付けながら分析して考察したりする主として「活用」に関する問題に課題が見られる。	・実際に地面に水を流してみるなど、体験学習を基に得た知識を応用する問題を取り入れるとともに、それを説明する活動を取り入れることでより深い学習理解につなげるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定的な回答は100%であり、県や全国平均を上回った。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定的な回答も90%と高い値を示していることから、各家庭において規則正しい生活の習慣化がきちんとなされていると考えられる。今後も、各家庭と連携しながら、規則正しい生活習慣を継続していけるよう指導していく。

○「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」や「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定的な回答は、70%前後ではあるが、県や全国平均を上回った。地域の方々と交流したり、積極的に地域の行事に参加したりすることによって、地域のよさをさらに知る機会となり、郷土を大切にしようとする気持ちにつながっていると考える。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」に対して、3時間以上と回答したのは0%。1時間以上～2時間未満勉強していると回答した児童は22.9%で、県平均の46%を下回った。また、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」に対する肯定的な回答は40%で、県平均の71.9%を下回った。中学校進学後には、授業内容を予習・復習することがさらに重要になるので、家庭学習の仕方や習慣化を指導していく。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、2時間以上と回答したのは0%。読書を全くしないと回答した児童は42.9%で、県平均の17.9%と比べると、高い値を示している。テレビやパソコン、スマートフォンなどの様々な情報メディアの発達・普及による、児童の読書離れが考えられる。読書集会や読み聞かせなどを通して、読書の楽しさを知るきっかけを作り、児童の自主的な読書活動を指導していく。

●「算数の勉強は好きですか」に対して、肯定的な回答は57.2%。「算数の勉強は大切だと思いますか」に対しては、91.5%の児童が大切だと感じている。しかし、新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいという意欲は低い。また、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題では、解答しなかったり、書くことを途中で諦めてしまったりする児童が多い。授業の中でも、求め方を、言葉や式で書くという機会を増やすことで、算数での書く力が養われるよう指導していく。

宇都宮市立上河内中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学びの創造」に向けての校内研修	自分の考えをまとめる時間を確保し、話し合い・教え合いを通して、思考の筋道をたどりながら、考えを深めることができるように指導の工夫を図っている。 授業の中で、「上央小 授業スタンダード（学習のきまり）」を実行し、はっきり・じっくり・すっきりした授業を展開し、児童の学習の定着を図っている。	「算数の授業の内容がよくわかる」の6年生の肯定割合は77.1%で、県と比べると、－8.1ポイントで低かった。しかし「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにする」の肯定割合は、94.3%で県より11ポイント高かった。
基礎・基本の確実な習得	基礎・基本的な内容を意図的に繰り返し学習したり、家庭学習の習慣化を図ったりしている。 また、朝の学習時間を活用し、担任以外の先生たちによる学習の個別指導を行ったり、とちぎっ子の結果から、「今年度中に復習するところ」を洗い出し、復習をしたりしている。	各教科の平均正答率は、県とくらべるとそれぞれ－10ポイント程度低かった。しかし、算数A（主として知識）は、－2ポイントと差が小さかった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をする。また、「家庭学習チャレンジ週間」の実施や学期ごとの「家庭学習名人表彰」等を行い、宿題に取り組む意識の向上を図っている。	「計画を立てて学習している」では、54.3%で県と比べると－17.4ポイント低かった。しかし、「宿題をしている」の肯定割合は、82.9%で、県と比べると－5.5ポイントで差が小さかった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
理科の記述式問題の解答において、一部の児童が未定着という2極化が見られた。	授業や生活の中で、「書く」時間を確保したり、個別に指導したりする。	理科だけでなく、国語などの学習のまとめにおいて、書くべき内容を正確にとらえ、それにあった事柄を考えながら書けるような指導の工夫をしたり、個別指導をしたりする。